



公園へでかけよう！

Discover London's Parks
第4回

Richmond Park

リッチモンド・パーク

リッチモンドの丘を上りきったところにある公園は「果てしなく」という形容をつけたくなるほど、一面に緑が広がっているところ。そしてその景色は、中世の頃とほとんど変わらないというのですから、このパークに出かけてみれば、いにしへの英国を感じることができるかもしれません。あまりにも大きいので、お出かけの際には公園の地図を持っていくことをおすすめします。

Text: Mami McGuinness (www.mamimcguinness.com)



開園時間: 7:00 (夏期) 7:30 (冬期) ~日没

最寄り駅: Richmond (地下鉄 District Line または列車)

連絡先: Richmond Park Office, Holly Lodge, Bog Lodge Yard,
Richmond Park, Surrey TW10 5HS

Tel: 020 8948 3209

www.royalparks.gov.uk/parks/richmond_park/

* レンタル自転車の問い合わせ (4~9月):

Sterling Concessions (Roehampton Gate そばの駐車場内)

Tel: 07050 209 249 または 020 7581 1188

ロンドン郊外の高級住宅地として知られ、日本人居住者も多い街、リッチモンド。その地で、約1000ヘクタールの広大な敷地を占め、ヨーロッパ内でも最大の公園といわれているのがリッチモンド・パークです。

初めて訪れた人の誰もがその広さに驚くこの公園は、国の自然保護区域に指定されているだけでなく、世界的にも重要視されている、自然の宝庫。なかでも園内に約1200本あるという、500年以上も前の樹齢を重ねた古木(ナラやカシといった、英語でoaksと呼ばれる広葉樹が多い)は、公園の歴史と公園内のワイルドライフたちを支えてきたメインキャラクターのひとつ。この樹々があるおかげで、現在では稀少な種類のキノコや甲虫(カブトムシやクワガタなど)が生息し続けることができるのです。また、ちよつとミニアックになりますが、園内で記録された甲虫の種類は1000以上をも数えるとのこと。これはイギリス国内に生息するといわれる甲虫類の4分の1にあたるのだというから驚きです。

ところで、歴史を遡ってみると、この地が王室の狩猟場とされたのは、1637年、チャールズ一世によるこのこと。疫病のペストに悩まれたロンドンを逃れ、リッチモンドにやってきた国王は、ロンドン近郊のこの場所が、鹿狩りに

に適する場所だと気づき、王室の狩猟場としました。当時は、2000頭の鹿を放ち、鹿が領地を出ないよう、約13キロメートルにおよぶ壁で囲ったといいます。ここでのハンティングは19世紀まで続けられ、その名残を受け、園内には現在でも約650頭の鹿がいます。6月頃は子鹿が生まれる時期とのことですが、たいしては母鹿が子どもたちを草の陰などに隠して護っているそう。でも、運が良ければ、この時期、愛らしい子鹿の姿を自にすることができるともいけません(ただし、鹿を触ることは、餌をやったりしないように)。

さて、鹿を見る以外にも、この公園でのアクティビティは盛りだくさん。乗馬にゴルフ、ラグビーと、広大な敷地内では、さまざまなスポーツを楽しむことができます。中でもおすすめはサイクリング。徒歩で巡るには大きすぎる公園も自転車なら、丘、草原、林、池、ガーデンと、さまざまに移り変わる景色を存分に楽しむことができます。実はこのパーク、自転車用の通路も整備されていますし、園内にはレンタル自転車の施設もあり、サイクリストの間では有名な場所。通りがかったサイクリストは「緑の中を自転車で走るのは最高にラブリーな気分。ここでのサイクリングはおすすめだよ」と話してくれました。

